

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援きのね（保育所等訪問支援）			
○保護者評価実施期間	令和7年10月9日		～	令和7年11月5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数)	12
○従業者評価実施期間	令和7年10月9日		～	令和7年11月5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数)	2
○訪問先施設評価実施期間	令和7年10月9日		～	令和7年11月5日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	10	(回答数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年11月17日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者支援に力を入れている	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に保護者交流会を開催している。 定期的に個別発達相談会を開催している。 電話やメール、連絡帳での相談事に迅速に対応するようにし、必要に応じて面談を実施している 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者交流会に未参加の方が参加しやすくなるよう、開催日や内容を工夫していく。アンケートを取りより良い会になるよう工夫していく。 保護者向け勉強会やペアレントトレーニング講座を開催していく。
2	社内研修と日々のミーティングにより支援の方向性がしっかり定まっている	<ul style="list-style-type: none"> 新規社員研修4日間で発達や支援方法についてしっかり学ぶ。その後も社内研修や外部研修の参加を通して常に学ぶ姿勢を忘れないようにしている。 支援の振り返りを必ず行い、特に難しいケースの場合はチームで意見を出し合い、様々な視点から支援を考えるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 社内研修が不定期になってしまっているので定期的に行えるようにしていく。 訪問支援の具体的な方法の研修を受けたことがないので、他施設の訪問支援がどのように行われているかなど、児童発達支援センターや相談支援事業所と連携して情報収集していく。
3	児童発達支援管理責任者、訪問支援員全員が、幼稚園や保育園での勤務経験と、障害児通所支援等での療育の両方経験があるため、どちら側の視点にも立つことができる	<ul style="list-style-type: none"> 訪問先によって様々な考え方や事情があることも考慮した上で、無理なく取り組める支援方法を助言できるよう配慮している。 様々な事情を考慮した上で、可能な限り取り組める合理的配慮を提案している。 	<ul style="list-style-type: none"> 訪問先の負担にならない支援方法を提案していく。可能であれば、訪問先で使える支援ツールを提供していく。 訪問先を対象とした勉強会の開催を検討していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問時に訪問先とじっくり話ができないことがある	<ul style="list-style-type: none"> 訪問先が支援中の忙しい中時間を作ってもらっているため、限られた時間で話したいことや聞きたいことの全てを話せないことがある。 担当者会議等でじっくり話せるが、日程調整が難しく先延ばしになってしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 忙しい中時間を作ってもらっていることに感謝しながらも、訪問支援の意義や必要性についてご理解いただけるよう工夫していく。 どうしても話をする時間が取れない時は、文書にてより詳しい支援方法などをお渡ししていく。
2	保護者交流会は行われているが、きょうだい支援や講座としてのペアレントトレーニングは行われていない	<ul style="list-style-type: none"> きょうだい支援をどのように進めたらいいのかわからない。 ペアレントトレーニングのトレーナー資格を持つ者がいない。 	<ul style="list-style-type: none"> きょうだい支援についての研修等を受けるなどして知識を得た上で、効果的なきょうだい支援について検討していく。 保護者にどんなきょうだい支援を行ってほしいかアンケートをとる。 ペアレントトレーニングのトレーナー資格を持った者が講座を行えるよう整備していく。
3			